



## 地域での私たちの望む暮らしとは ～当事者・ご家族の意見交換会～

小倉祇園太鼓の音を遠くに聞きながら、平成30年7月19日（木）に第239回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回のテーマは“地域での私たちの望む暮らしとは～当事者・ご家族の意見交換会～”でした。



当支援研究会では発言者の方を当事者・家族対象としたのは初めてで、事前に“困ったこと、悩んでいるときにどんな機関に相談したいと思いますか。地域で生活するためにどんな関係機関とのつながりを望みますか”と募集させていただき、当日は当事者・家族の方3名と支援者の方1名にご登壇いただきました。

トップバッターは身体障害者手帳と療育手帳をお持ちの重症心身障害の30代の娘さんのお母さん。『娘が「地域で生きる」こと』と題して、“親子の紹介” “利用中の福祉サービス” “娘にとって「地域で生きる」とは？” “気持ちの変化をたどる” “私たちを救うもの” についてご発言していただきました。

娘さんは現在、地域で過ごされていて、「今まで地域で経験してきたことをつなげて次に進みたい」とのことと、「話しが出来るうちに何かを始めたい」と親亡き後の課題についての期待や不安、葛藤等を話していただきました。

引き続き、療育手帳を持っている当事者のセルフヘルプグループで活動されている男性と女性の方にご発言いただきました。

男性の方からは、“当事者活動について” “ひとり暮らしについて” “しごとについて” “休日の過ごし方（余暇のこと）について” “将来のことについて” “災害時のことについて” 等のお話を、女性の方からは“日常生活で困ることについて” “災害時のことについて” “障害者差別だと感じること” についてご発言いただきました。

2人に共通する話題として、災害時に“避難場所がわからない” “どのようにすれば助けてもらえるかわからない” “どのようにしたら地域の人と関わることができるかわからない” 等、お2人が暮らしている身近な地域とのつながりについての疑問や、“結婚について” “仲間づくりの場について” 等、出逢いの場についての課題が出されました。

会場の参加者からは「これなら“安心して地域で暮らしていけるシステム”と、その“システムを支える組織力”が必要で、チームで関わっていかないといけないとすごく感じた」「相談する場所が身近な場所にあったらいい。インフォーマルな関わりも大切ではないか」等のご意見が出されました。

今回の支援研究会は決して参加者が多いとは言えない研究会ではありましたが、いつも以上にご意見、ご感想をたくさん頂戴いたしました。当事者の方の言葉の重さ、声を聴くことの大切さ、障害のあるなしは関係なく同じ空間を共有することの意味を考えさせられる研究会でした。今後も北九州の地域で暮らす障害者の方たちのことを考えるきっかけの支援研究会でありたいと思います。



本日の参加者33名。内新規の方は10名でした。ありがとうございました。



※こちらの議事録は  
北九州市障害者自立支援協議会の  
ホームページでもご覧いただけます。  
<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>

